



作務のあい間をくつろぐ康哉住職 一東堂を務められる潮音寺で—



寺報 ともしひ

金剛山大長寺

令和四年一月一日発行
第十六号

「青春、情熱そして人生」

安藤 康哉（大長寺小住）

令和三年十一月、瀬戸内寂聴さんが九十九歳で亡くなられた。病に伏しているとき初句集「ひとり」を出版して、その後に長編連載小説「いのち」も完結された。この時〈人に逢ひ人と別れて九十五歳〉の句も詠まれて、「生きてたら嫌なこともあるが：（中略）自分で喜びを見出さなきやいけないの」とのべられた*

また昨年夏に寂聴の一文を読むことが出来た。その一節をここに紹介させていただく。

「私はいつでも情熱につき動かされて生きてきた。私にとつて人生の岐路で自分の進路を選ぶとき、いつでも、情熱のうながす方を選んできた。情熱の示す道には、必ず炎が燃え激流が待っていた。私としても炎に焼かれたり、激流にながされたりするのに恐怖を感じないわけではい。しかし、平坦な、人のふみ固めてくれた道を歩くのは退屈すぎるし、その道の風景には魅力がなかつた。情熱が青春としか同居したがらないなら、私は永遠に年をとらないという社会的法則に服してもいいとさえ思つた。」【次頁へ】

そもそも、情熱とは青春の特権なのであろうか。いや決してそうではない。かつて、一生青春を謳歌し、情熱の世界に生きつづけた歌人、岡本かの子の生涯が思ひ浮かんだ。彼女は自らの生命の火を一瞬、一瞬に燃えつくし、その焰の烈しくも華やかな乱舞を見事に演じきつたすばらしい人生であった。

年々にわが悲しみは 深くしていよいよ華 やぐいのちなりけり

（かの子）

それは年齢に関係ない彼女の若い心、青春の情熱に生きた姿、人生の深い悲哀を秘め

ながらも美しい夢を描きつけた純粹な心であつた。

さて、寂聴、かの子の二人に共通するものは何だろうか。彼女たちはいのちの躍動

東南アジアの子供たちに 絵本をとどけてみませんか



てのものを、魂の叫びとして燃やし、輝かせ、焰となつて消えることのない永遠のファンタジーの世界を創り出していたのであつた。

また寂聴の希求する世界と、かの子の一生とを重ね合せ考える時、一体青春とは何か、情熱とは何か、人生とは

てのものを、魂の叫びとして何か、という人生論的主題が单なる観念論ではなく、具体的な実像として描き出され、その初々しさが鮮明に表象されており、私の拙い歌を一つ。おわりに、私の拙い歌を一つ。おわりに、私の拙い歌を一つ。

散りぎわの花のいのちは
悲しけれされど華やぐ
わがこころかな

特別志納者紹介	
壱拾万円也	為年回供養 上島 渡部陽
壱拾万円也	為葬儀供養 中家村 辻村 純夫
壱拾万円也	為年回供養 榎木 小野 友靖
伍万円也	為年回供養 参万円也
為年回供養 中家村 岡本富久枝	為年回供養 上島 大津 昭雄
壱拾万円也	為年回供養 上島 猪爪 正司
為年回供養 上島 北村 孝雄	為年回供養 秦野 遠藤 彰子

この子供たちに少しでも、学びの機会にふれられるようになります。

これは、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会（SVA）が行っている事業であります。大長寺においても、これらの活動に賛同し、この「絵本を届ける運動」に参画いたします。

この運動は、最近、特に耳にする「SDGs」の目標の

うち、「4・質の高い教育をみんなに」の目標達成に寄与するものであります。

檀信徒の皆様にも、ぜひ、参画いただければ、幸いです。お問い合わせは、大長寺事務所（831-3714）までお願いいたします。



現代に生きる坐禅の心

大長寺院代 安藤 嘉則

近年マインドフルネスという心の健康をめざす療法が行わっています。たとえばグーグルのような巨大IT企業ではこれをグーグルメツソッド

として開発し人材育成を図り、それが日本の大手企業にも取り入れられています。

先日テレビ局に勤める私の教え子から電話がかかってきています。「今度グーグルから講師が来てマインドフルネスの瞑想の研修をやるのだけれど、駒沢女子大学と関係ありますか?」と聞いてきましたので、「大いに関係あり」と答えた

①絵本セットを差し上げます
②送付する国の「訳文シール」を切り取り、絵本の日本語の上に貼ります。
③完成した絵本を公益社団法人シャンティ国際ボランティア会（SVA）に送付します。
※費用は、大長寺並びに曹洞宗が負担します。

参加方法は、
①絵本セットを差し上げます
②送付する国の「訳文シール」を切り取り、絵本の日本語の上に貼ります。



ジンという方はその著書で「日本の鈴木俊隆師（曹洞宗平塚出身）の著書に出会い、本格的に瞑想の精神を探求する道に足をふみいれることになつた。十三世紀の偉大な道元禅師の優れた思想にも大きな影響を受けました。」と述べています。

またアップル社のステイブジョブズさんも鈴木俊隆老師に直接参じ、「どうか永平寺で修行させてほしい」と懇願し、さらに永平寺から来た乙川老師を会社の顧問としています。

永平寺の禅の世界は、なにか古めかしい苔むした世界のように思われますが、最先端のカルフォルニア・シリコンバレーでは日常的に生かされているのです。



また朝日新聞でNTT東日本幹部を集めて調布の研修センターでこの瞑想を行っている記事が掲載されています。だが、どうも日本の企業ではアメリカで盛んになつたものに飛びついでいく上で複雑な思いがいたしました。

ご逝去の方々と命日

故 渡部 正夫 様	行年 八十九歳	令和三年八月四日没
上島 施主 渡部 陽 様	行年 九十五歳	令和三年十月六日没
故 井上 健二 様	行年 五十九歳	令和三年九月一日没
上島 施主 井上 紀江 様	行年 八十七歳	令和三年十月十二日没
故 猪爪 光男 様	行年 七十八歳	令和三年九月十一日没
下島 施主 猪爪 正司 様	行年 八十九歳	令和三年十一月十日没
故 小野 博良 様	行年 七十七歳	令和三年九月十六日没
中家村 施主 小野 重子 様	行年 八十四歳	令和三年九月三十日没
故 和寺 良友 様	行年 九十五歳	令和三年十一月二十九日没
沼津市 施主 和寺 幸一 様	行年 九十九歳	令和三年十一月二十九日没



例年のように会員の方へのお願いはいたしませんでした。今年を迎えて頂くことが出来ました。今年こそは、コロナが終息し穏やかな年となるよう願っています。

令和三年十一月十八日に、役員と榎本地区の石井さん、佐藤さんにご協力いただき、頭巾を作りました。

婦人会長
山室みゆき

六地蔵尊の
頭巾作り

巡回地蔵尊【写真左】と六地蔵尊【写真右】に頭巾を作つて頂いた婦人会の方々と道隆大長寺副住職

